**○○○○○○○○○○主題（12pt，太字）○○○○○○○○**

─ 副題（11pt）○○○○○○○ ─

**海岸 林太郎（所属名）・氏名（11pt）**

kaiganrin@kaigan.com

1. **はじめに**

本稿は，令和7年度日本海岸林学会陸前高田大会の研究発表会における原稿作成の手引きである．この原稿自体が，発表原稿のレイアウト，使用すべきフォントのサイズやスタイルの例となる．

原稿の枚数は1枚または2枚とする．受付された原稿は，基本的にそのままオフセット印刷される．

1. **レイアウト**

原稿の上下のマージンは，このひな形ファイルをそのまま用いるか，これと同様（左右マージン25mm，上下マージン25mm）とする．フォントは，漢字，ひらがな，カタカナについては明朝体全角を，英字・数字については半角表記とし，Timesなどの代表的なRoman体を用いる．句読点には「，」，「．」を用い，「、」，「。」は用いない．

原稿は，表題部，本文からなり，必要に応じて引用文献の一覧を含む．また，数式，図，表が含まれていても構わない．本文に対する脚注，付録は用いないこと．

* 1. **表題部**

表題部は一段組で，発表の表題，著者名（所属），連絡先からなり，中央寄せで和文とする．ただし表題・副題については英文も可とする．英文の場合，Arialといったゴシック体を用いる．表題に副題がある場合，その下に副題を添える．著者の後ろに括弧付けで所属を記載する．また，その下の行に第一著者のE-Mailアドレスを記載する．なお，表題部については他の原稿と体裁が大きく異なる場合，学会側で体裁を整える場合がある．表題部で使用すべきフォントを表1に示す．

表1 表題部のフォント

|  |  |
| --- | --- |
| 表題（和文） （英文） | 12pt　ゴシック太字12pt Arial太字 |
| 副題（和文） （英文） | 11pt　明朝体11pt Roman |
| 著者名 | 11pt　明朝体太字 |
| E-Mail | 9pt，Roman |

* 1. **本文**

本文は，横45文字×縦45行，両端揃えとする．なお，行数については多少の前後の調整は可とする．フォントは11ptのものを用いる．用語を強調するため，「 」を用いても良い．

* + 1. **見出し**

見出しは第3レベルまで用いることができる．見出しの大きさは11ptとし，番号は半角のRoman体，タイトルはゴシック体とする．各見出しの上には１行の空白を置く．ただし，見出しが連続して表記される場合には1行の空白は入れないものとする．

* 1. **引用文献**

文献の引用に際しては，著者名と発行年を明記する．著者が3名以上の場合には，第2著者以降を「ら」(日本語文献の場合)あるいはイタリックの「et al．」(外国語文献の場合)で置き換える．

引用したすべての文献は，筆頭著者の姓のアルファベット順に配列し，9ptフォント明朝体を用いて原稿の末尾に置き，番号なしの箇条書きとする．本文での引用の書き方は著者名と発行年を表記するものとし，（●●ら，2024）といった表記とする．

見出しは10ptゴシックで引用文献とする．

* 1. **数式と数学記号**

各数式は，欄幅でセンタリングすることを原則とする．数式には(1)，(2)，．．．のように番号をつける．この番号は，数式の行(2行にわたる場合は最後の行)に右寄せして配置する．数式を本文から分離するため，その上下にそれぞれ1行の空白行を残す．数式が長く，途中で切断する場合は，各行の間に半行の空白行を入れる．

* 1. **図と表**

図と表は，初出のページに置くことを原則とするが，次のページに繰り込むこともできる．また，図表の挿入レイアウトは行間でも文字間でも構わない．

* + 1. **図**

図は，オフセット印刷を想定した鮮明なものとする．すべての図には，本文中で出現の順に図1，図2，．．．のように番号をつけ，1文字分の空白を入れたのち，図タイトルを必ず表記する．なお，番号は半角Roman，タイトルは明朝体とする．

* + 1. **表**

すべての表には，本文中で出現の順に，表1，表2，．．．のように番号をつけ，1文字分の空白を入れたのち，表タイトルを必ず表記する．なお，番号は半角Roman，タイトルは明朝体とする．

1. **おわりに**
	1. **○○○**

学会大会の要旨集作成のための手引を示しました．原則として，ここに示した内容（このファイル）で作成してください．

**引用文献**

* Aoyama S., Asaka T., Kudou K., and Iwashita K. (2012): Tsunami damage in the Arahama coastal forest interpreted from ALOS data. Journal of the Japanese Society of Coastal Forest 11 (2): 53-58．
* 国土地理院：平成23年（2011年）東日本大震災に関する情報提供，

http://www.gsi.go.jp/BOUSAI/h23\_tohoku.html，

2015.1.31閲覧

* 東日本大震災に係る海岸防災林の再生に関する検討会（2012）：今後における海岸防災林の再生について（案）．林野庁森林整備部治山課，22pp．
* 中島勇喜，岡田穣編著（2011）：海岸林との共生：生物多様性保全機能（林田光祐著），山形大学出版会，pp.56-61
* 坂本知己，新山馨，中村克典，小谷英司，平井敬三，齋藤武史，木村公樹，今純一（2012）：東北地方太平洋沖地震津波における海岸林の漂流物捕捉効果．日本海岸林学会誌11（2），pp.65-70